

出題 蜷雪ゼミナール

則武校・船橋巧



全科目を指導しています。英語の学習を通じて、全科目に通じる勉強法を紹介します！

## 問題【英語】

学習指導要領の改訂に伴い、学年によっては一部習っていない文法事項が存在するようになりました。今回はそういった内容のうち、There is [ / are ] で始まる文を扱います。There is [ / are ] <名詞> <場所>、という形で「<場所>に<名詞>があります」という意味です。このことを踏まえて、次の(1)～(3)を英語にしてみましょう。

- (1) (その)机の上に(1本の)鉛筆があります。
- (2) 私のクラスには30人の生徒がいます。
- (3) (その)箱の中に私のノートがあります。

## 豆知識 雑学コラム

### There is構文をひもとく

実は3つのうち、どれか1つだけ、There is [ / are ] から始まる文にしてはいけないものがあります。どれなのかよく考えてから、続きを読んでください。

そもそも、There is [ / are ] から始まる文は、どのようにしてできたのでしょうか。これを紐解くために、次の(0)の文を英語にしてみましょう。

- (0) 公園に(1人の)少年がいます。

普通に書くと、A boy is in the park. となりますね。しかし、これは英語としては不自然です。不定冠詞 a をつけた単数名詞は「何か不特定なもの＝初登場のもの」であることを表します。一方、定冠詞 the や所有格の代名詞 (my など) をつけた名詞は「特定のもの＝既に出たもの」です。また、英語は「新しい情報や長い情報は後ろに置きたがる」という性質があります。そのため、文頭にいきなり新しい情報にあたる a boy が来るのは、英語として不自然なのです。

これを解消するには、「主語+動詞」という順番を崩さなければなりません。この際「主語+動詞+<場所>」という形の文は、「<場所>+動詞+主語」という語順に書き換えることができます。つまり、先ほどの文は In the park is a boy. としても大丈夫です。

しかし、今度は最初に In the park というやや長めの情報が来てしまいました。これを後ろに置きたいのですが、ただ後ろに置いて Is a boy in the park とすると、疑問文のように感じますね。そこで、is の前に there を置いた There is a boy in the park. とすることで、疑問文のような感覚を解消させています。

さて、このように考えると、There is [ / are ] 構文の注意点として、

- ① b e 動詞 (is / are) は後ろに来る名詞を主語としたときの b e 動詞

- ② この構文はそもそも、b e 動詞の後ろに来る名詞が新情報でないといけない

という2点があることがわかります。そのため、「私の」ノート、は新情報にならないから(3)では There is [ / are ] から始めることはできないのです。気をつけましょう。

## 【解答例】

- (1) There is a pencil on the desk [ / table ].
- (2) There are thirty students in my class.
- (3) My notebook is in the box.